

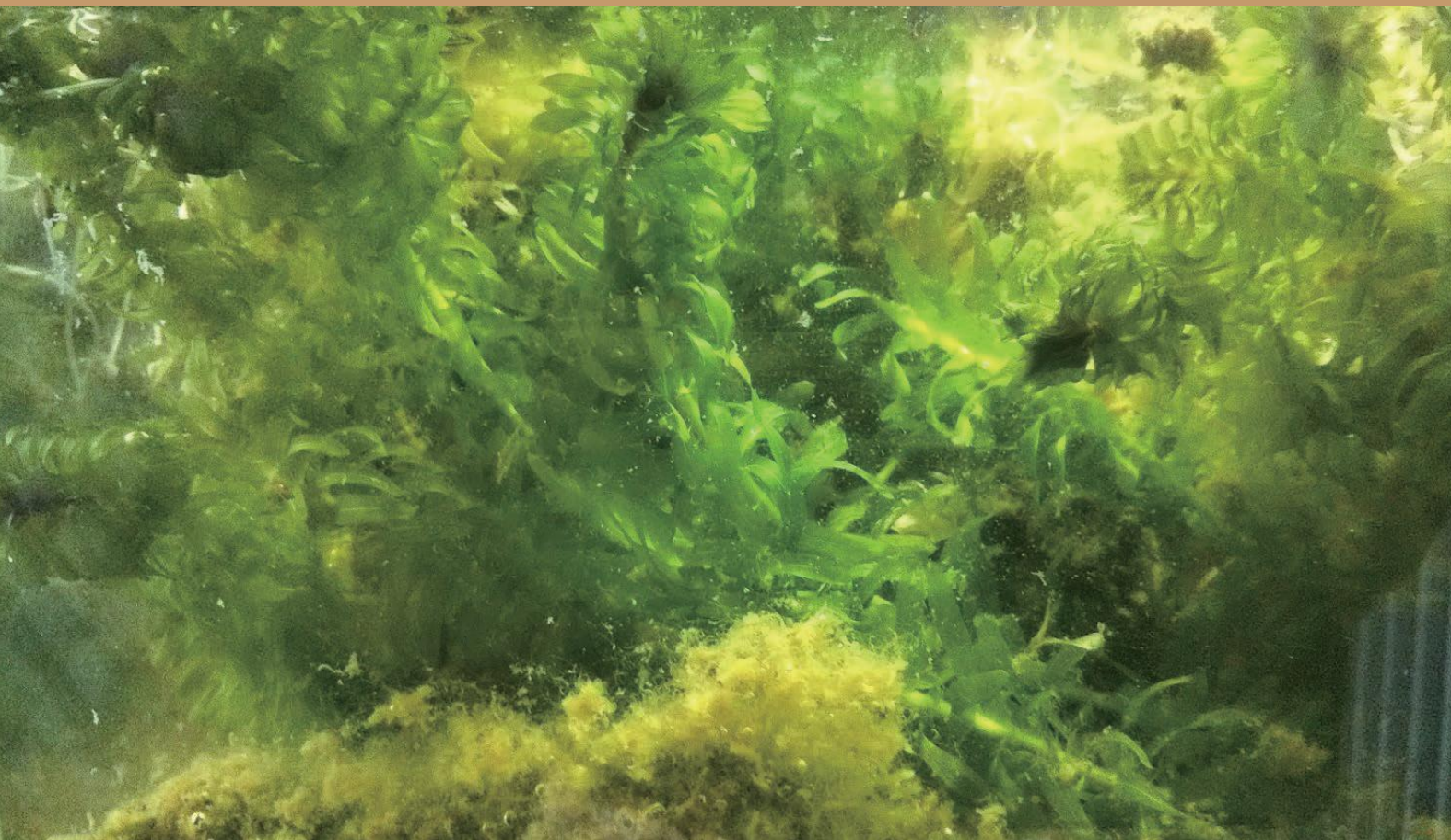
特定外来生物

緊急対策外来種

重点対策外来種

オオカナダモ

学名 *Egeria densa*
別名 アナカリス



コンクリートで護岸された川に繁茂するオオカナダモ

南米原産で、実験材料や金魚藻として利用されていたものが国内で広く分散しています。低温や水質汚濁などの悪条件にも耐えやすく、コンクリート護岸された水辺であってもわずかな隙間に根を下ろして繁茂します。

オオカナダモは、もっとも細胞の観察がしやすい素材の一つで、理科の実験ではよく使われます。アナカリスの商品名で売られ、観賞魚の水槽を彩る植物として現在最も使われています。

水面下でよく茂りますが、夏に水面上に白い花を咲かせます。



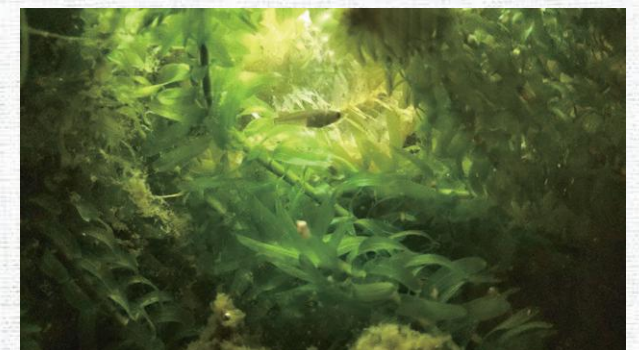
オオカナダモの花

影響

在来のエビモやクロモと同じ沈水植物で、水面下で繁茂します。耐寒性があり、冬でも緑色のまま越冬します。また、在来種よりも水質汚染や護岸化に強いようで、三浦半島では在来種を目にすることはほとんどなくなりました。

水生植物群落は水生生物のゆりかごになる、重要な環境要素です。今では在来の小魚やエビ類が外来植物由来の環境に依存して生息している状態と言えます。

あまりにも繁茂しすぎると、川の流れの妨げになったり、日照が水底に届かずに嫌気性になるなど、水質を悪化させる原因にもなります。その一方で、コイやアメリカザリガニ等が放流され水生植物が一掃された水辺環境よりはまだ良いとも言えます。

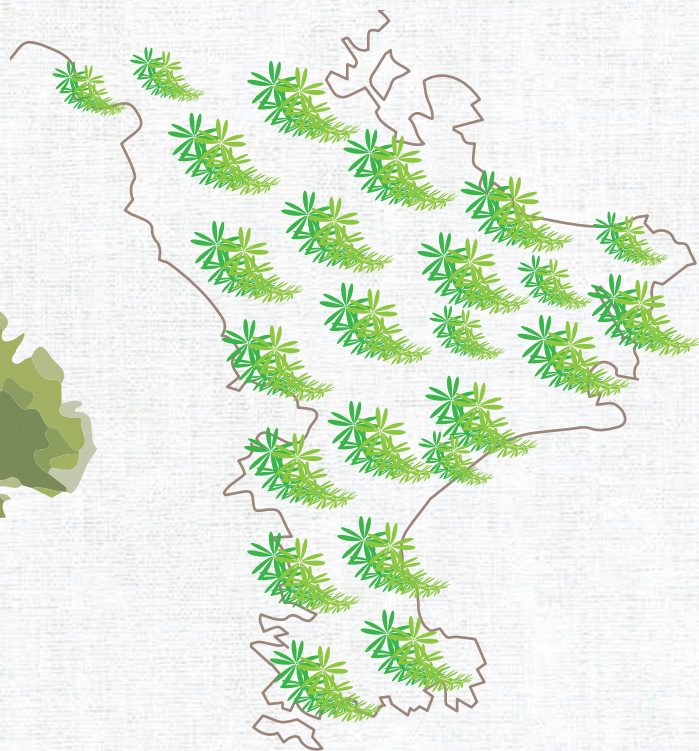


水生生物とオオカナダモ



三浦半島での分布傾向

河川、公園の池など、至る所で見られます。
10 ～ 70 センチ程度の水深の、比較的水が澄んでいる場所に見られます。



駆除の方法

茎は柔らかくちぎれやすいので、丁寧に根から抜き取ります。群落が大きくなりすぎていると絡み合って完全に除去することは難しいので、一度大まかに植物体を除去したのち、数週間おいて再生してきた芽を丁寧に抜き取るのが効果的です。陸上で生育することはできないので、抜き取った後は陸上に積み上げておくことで駆除できます。



注意

沈水植物は小型のエビ類や稚魚、水生昆虫等の重要な生息環境となっています。オオカナダモのみが繁茂している水域で駆除をすると、水生動物の生息環境を破壊することにも繋がります。埋土種子からの巻き出しや近隣の水域からの移植も含め、在来植物と置き換えられる体制を確立してから駆除を始めると良いでしょう。

ちぎれた茎から根を生やすので、増水などで流出すると、流れ着いた先で群落を拡げます。水槽の水を捨てる時にオオカナダモが混ざっていると、それが侵入源になります。今でも最も安価で販売されている水草だけに、管理には注意が必要です。

注意

在来種

クロモ

在来種

オオカナダモより小ぶりの印象を受けますが、非常に酷似しています。冬には枯死します。初夏にごく細い白い花をつけることで、カナダモ類と識別します。三浦半島では現存しないと思われる。



クロモ

エビモ

在来種

縮れた大きな葉をつけます。三浦市に数カ所現存します。池のものと川のものとは、葉や茎の形状が異なります。夏期に枯れます。



エビモ

シャジクモ

在来種

水田や浅い池に見られ、細かいスギナ状の藻が広がります。水質の変化には弱く、毎年同じ場所で生じるとは限りません。ガムシ類の生息環境となっています。



シャジクモ